


分野	22	高齢福祉・障がい福祉	通番 38
施策	222	介護等への支援の充実	
5年後の目標		認知症や介護等への理解が進み、介護が必要な人や家族が住み慣れた地域で最期まで安心して生活できている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	認知症施策総合推進事業		会計	款	項	目	21,676,731	高齢介護課
			介護	3	3	2		
事業の概要								
認知症対応型カフェ事業等の啓発や活動の促進を図りながら、認知症の早期発見から症状に応じた適切な対応まで可能となる体制の構築に努めます。また、市民の認知症への理解を深めるための普及啓発を関係機関が行うことで、地域とのネットワークを構築しながら、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整備します。								


平成30年度の取組							
D (取組)	指標(～H29年度)	認知症サポーター養成講座受講者数(累計)				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	3,263 (平成26年度)	目標	4,800	5,600			
		実績	5,128	5,798			
	指標(H30年度～)	おでかけあんしん見守り事業協力者数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
1,227 (平成28年度)	目標			2,000	2,200	2,400	
	実績			17,044			
<ul style="list-style-type: none"> 認知症初期集中支援チームとして延べ22ケースを支援しました。 認知症対応型カフェについては計11か所開設しており、気軽に集える居場所として取り組んでいます。 おでかけあんしん見守り事業協力者数の内訳において、見守りメール登録者は年々増加傾向にあります。見守りアプリのダウンロード数は全国の総数となっていることから、実績が大幅に増加しました。模擬訓練を通して、見守り事業の目的を理解してもらえよう取り組みました。 					模擬訓練の様子 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成30年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		認知症サポーターの数		地域で見守る体制を構築するため、若年世代等にも受講者を増やす必要があります。	198
	達成度合	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) ・ 講座受講者が目標以上の人数となるなど、認知症サポーターの養成が進んでいます。また、認知症対応型カフェの設置が市内11か所となり、認知症の方と家族が気軽に通い、相談できる環境が整ってきています。 ・ おでかけあんしん見守り事業協力者数の中で、見守りメール登録をされる市民は増加傾向にあります。地域を市民で見守る意識が高まってきているのではないかと考えられます。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポーター養成講座において、若年層(10代～30代)の受講率が低い状態です。 ・ 若年性認知症の方に対しての居場所の確保や、就労場所などでの周囲の理解が求められます。 				

目標達成に向けての次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1: 計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の方が行方不明になられたときに早期発見となるよう、各地域において模擬訓練を実施し、地域での見守りが拡充されるよう取り組みます。 ・ 認知症サポーター養成において、より多くの方に若年性認知症を含めた認知症やその支援制度について周知します。また、若年層が受講しやすい環境づくりを検討していきます。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の方が行方不明になられたときに早期発見となるよう、各地域において模擬訓練を実施し、地域での見守りが拡充されるよう取り組みます。 ・ 認知症サポーター養成において、より多くの方に若年性認知症を含めた認知症やその支援制度について周知します。また、若年層が受講しやすい環境づくりを検討していきます。
方向性	対応策等				
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の方が行方不明になられたときに早期発見となるよう、各地域において模擬訓練を実施し、地域での見守りが拡充されるよう取り組みます。 ・ 認知症サポーター養成において、より多くの方に若年性認知症を含めた認知症やその支援制度について周知します。また、若年層が受講しやすい環境づくりを検討していきます。 				

分野	22	高齢福祉・障がい福祉	通番 39
施策	222	介護等への支援の充実	
5年後の目標		認知症や介護等への理解が進み、介護が必要な人や家族が住み慣れた地域で最期まで安心して生活できている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	民間老人福祉施設等 整備・運営支援事業		会計	款	項	目	24,691,000	高齢介護課
			一般	3	1	2		
事業の概要								
一人暮らしや高齢者世帯の増加などにより、安心して住み慣れた地域で生活が継続できる環境整備が求められており、また家族の介護を理由とした介護離職が課題となっていることから、特別養護老人ホーム等(認知症グループホーム及び有料老人ホームを含む)の施設整備を計画的に促進します。また、事業所が安定かつ適切な運営を行えるよう支援します。								

平成30年度の取組							
D (取組)	指標(～H29年度)	特別養護老人ホーム数				単位	施設
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	5(平成26年度)	目標	6	7			
		実績	6	7			
	指標(H30年度～)	特別養護老人ホーム等の定員数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	559(平成28年度)	目標			599	599	691
		実績			630		
	<p>・3事業所に民間老人ホーム等施設振興補助金を交付し、事業所が安定かつ適切に運営できるよう支援を行いました。</p> 						

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成30年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
			—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・第7期介護保険事業計画に基づいて、特別養護老人ホーム等の開設数を設定し、計画通りに遂行しています。
	課題等	・施設入所待機者は年々減少しているが、依然として相当数存在するため、一定の施設整備が必要です。(平成30年度特養待機者185人、京都府調べ。)		

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	・施設系サービス(有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等)の状況なども考慮しつつ、着実に整備を進めます。